

## 3rd. Anniversary

がん化学療法科 ニュースレター

## ほほえみ 第36号



ほほえみが、36号となりました。36号というと、3年続いているということになります。最初は、試しにやってみる感じでしたが、3年も続くとは思いませんでした。第4号と第5号の間に、東日本大震災があり、号外も出していますが、振り返ってみると、いろいろなことがあり大変なこともありました。その都度、取り上げた話題も変化していて、今では懐かしい感じがします。今月は、これまでの既刊のものを集めて新渡戸稲造文庫の横に置かせていただきますが、ご希望があれば復刻版をお渡し致しますので、ご希望の方はおっしゃってください。

## がん哲学外来用語を哲学する 「にもかかわらず」

がん哲学外来に関わってから、約二年が経過しました。その間に、がん哲学外来市民学会が設立され、制度の確立や、活動の広報など様々な課題があり、臨床医学とは違った意味で、充実した活動ができたと思っています。なかでも、がん哲学外来を分析して、いわゆる言語化するという試みは、当初から個人的に関わってきた部分でした。

昨年、勇美記念財団様から研究助成をいただき、何回か樋野興夫先生に盛岡にお越しいただいて、実際のがん哲学外来を実施していただき、その分析を行いました。この度、その結果をまとめて、最終報告書を作成し、それを抜粋して、「がん哲学外来 メディカル・カフェの手引き」というパンフレットを作成しました。当科外来でも、配布致しますので、是非、手に取ってご覧いただければと存じます。

詳しくは、パンフレットや最終報告書を見ていただくのが良いのですが、「暇げな風貌」、「偉大なるお節介」の意味を深く考えたり、今日の医療の中で、がん哲学外来がどのように位置づけられるのかを定式化したり、難しい考察でしたが、その過程で悟ることも多く、個人的には、極めて有意義な体験でした。

とりわけ、がん哲学外来の言葉の意味を問い直すことは、現在も行っていますが非常に奥深いものです。二年前の考え方、認識の仕方とは、たった二年でも、がらっと考え方が変わっています。そして、日々変わりつつあります。

がん哲学外来の言葉は不思議な言葉で、論理を言っているのではなく、レトリックともいえる言葉なのですが、その内容を突き詰めると、結局、哲学に戻っていくのです。

「にもかかわらず」、新渡戸稲造が好んで使ったと言われる言葉です。この言葉を使うときの真情を考えてみました。日常生活では、慣習、世間体、体裁などなど、自由に行動することは、実は容易ではありません。「長いものには、巻かれろ」という処世訓もありますが、常にそうであれば良いかという、決してそうではありません。

そこで、世間に反対してでも、自分の心の底で正しいと思ったことを通す、その時に、「にもかかわらず」という気持ちになるのではないかと考えます。太平洋戦争の直前、新渡戸稲造は、「我れ、太平洋にかけの橋とならん」という気持ちを貫いて渡米しますが、彼の死を賭した活動は実りませんでした。このようなことを実行するのも、「にもかかわらず」の精神なのですが、なぜこの精神がこれ程強いのかを考える、これが哲学ですね。

津波が来る → 逃げるのはごく自然ですが、「にもかかわらず」持ち場を離れなかった。これも、「にもかかわらず」精神ですが、なんと強い力を持ったものかと思えます。「にもかかわらず」が、いかに人間の在り方を規定することか。

「にもかかわらず・・・」。時折、呟いてみえています。



### 第三回 がん哲学外来コーディネーター養成講座（佐久市）

10月5,6日に、長野県・佐久市で行われた、第三回 がん哲学外来コーディネーター養成講座に参加いたしました。全国から約100名の市民の方々が集まれて、コーディネーターがそなえるべき対話などについて活発な議論が行われました。一日目には、哲学者の川田殖先生が、講演されましたが、先生はG・E・R ロイドの「アリストテレス」も訳された方で、丁度、この本を読んでいる途中であったので、個人的にいろいろとお話しができて感激しました。

樋野興夫先生は、両日の最後に、総括のお話しをされましたが、いつもながら、人間性あふれる素晴らしいお話しを伺うことができました。というより、何かその度ごとに、学ぶことが増えていく印象です。

一日目の樋野先生のお話しのまえに、少し、お話しさせていただきました。対話というテーマであったので、当日の話の流れで、準備していた話とは変えて、「岩中の花」という、伝習録に収められた話を踏まえて、お話ししました。樋野先生の前なので、冷や汗をかく思いでした。こういう役は、荷が重すぎると感じたので、頼まれても、固辞すべきであったと思いました。

来年は、福井市で第4回の養成講座が行われる予定です。



樋野興夫先生



川田殖先生



### 焼き芋を、自宅で焼くには？

今年、収穫したサツマイモを、3週間熟成しましたが、そろそろ食べごろなので、焼き芋にしました。アウトドアであれば、たき火で焼くのですが、今年は、アウトドアに行けなかったのが、コンロで、ダッチ・オーブンを使って焼いてみました。さすがに、安納イモの美味しさは格別ですね。

我が家のダッチ・オーブンは、ステンレス製なので、コンロにかければ手軽に調理にも使えます。結構、本格的な焼き芋ができます。ものすごく、重い蓋が付いているので、煮物もできますが、牛すね肉のワイン煮込みや、おでんも、ほったらかしにしても出来てしまうという優れものです。アウトドアで使った回数より、普通にお鍋として調理に使った回数の方が圧倒的に多いですね。



オーブンにも、年季が入ってきました。

### MEMO

#### 11月のがん化学療法科の予定

11月3日	文化の日
11月8日	柴田教授外来
11月15日	新渡戸稲造祈念 メディカル・カフェ
11月22日	柴田教授外来
11月23日	勤労感謝の日

『ほほえみ』3周年記念として、11-12月は、復刻版をがん化学療法科外来にて、見ていただけるように致します。また、ご希望の方に、復刻版を差し上げる予定です。

